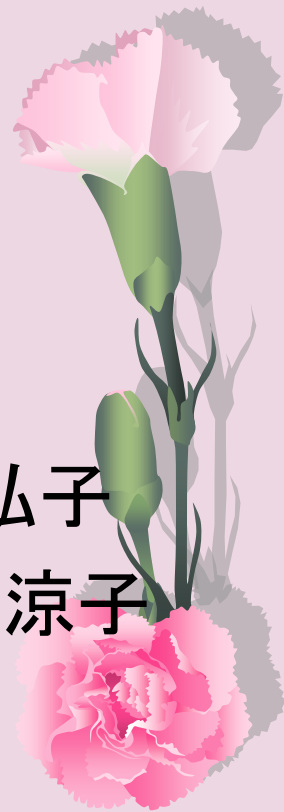


専門職大学院における 助産教育の評価—中間報告

天使大学大学院 助産研究科

大石時子 園生陽子 平山恵美子 高橋弘子
本宿美砂子 津田万寿美 今崎裕子 宮本涼子



目的

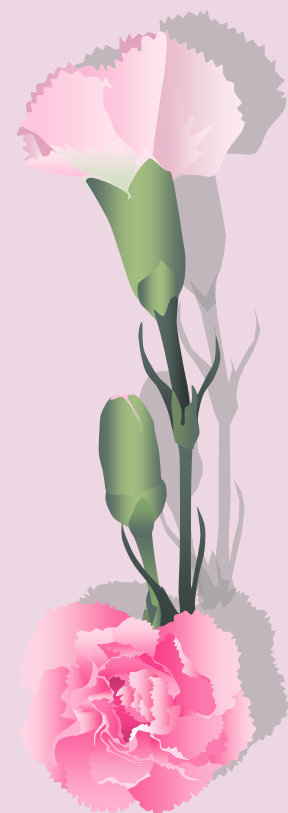
助産研究科専門職課程の教育目標の達成度
合い及び教育内容を評価する

背景

2004: 専門職大学院開設

2006: 第1回生終了

2010: 第5回生終了



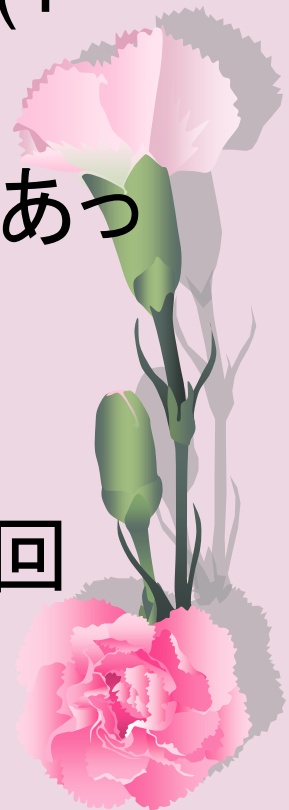
倫理的配慮

- ❁ 天使大学 研究の倫理委員会の承認
- ❁ 質問紙と返送封筒は匿名
- ❁ 郵送先住所は、天使大学同窓会理事会の許可を得て、同窓会名簿にある住所を使用
- ❁ 上司との面接は書面で説明し同意書をとる
- ❁ 助産院に就職した修了生2名との面接は書面で説明し同意書をとる



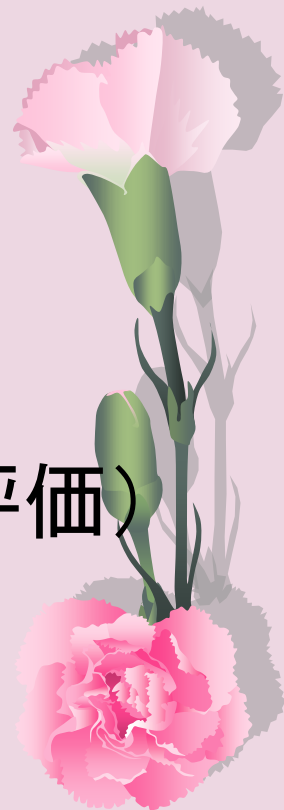
方法1： 結果

- 調査期間 2010年9月～10月
- 無記名自己記入式質問紙調査を、助産師有資格者である当大学院助産研究科修了生(1～5回生)126名を対象に実施した
- 配布した質問紙は120票、回収は63票であった(回収率 52.5%)
- 有効回答 62票
無効回答 1票(属性についてすべて無回答)



質問紙 質問項目

- I. 助産研究科入学前の対象の属性
- II. 助産研究科修了後の対象の属性
- III. 専門職大学院での教育は役立ったか
(5段階リカートスケール、8項目)
- IV. 助産師としての行動・態度について
(5段階リカートスケール、12項目)
- V. 助産実践について(教育目標の自己評価)
(5段階リカートスケール、21項目)



天使大学大学院助産研究科 教育目標

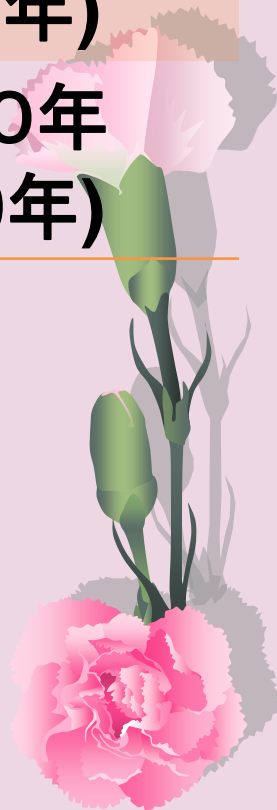
1. 女性に優しい自然出産を自律して医療機関や地域で実践するために、正常経過の診断およびケア、正常からの逸脱の判断及びケアができる能力の育成
2. 科学的根拠の明らかにされている手段を、ケアの質の向上に応用する力の育成
3. 助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、助産チーム及び他職種との連携・調整能力の育成
4. 子育て支援について助産師の役割を明確化し、具体的な援助が行える。また、子育てに関わる他領域の専門家の役割を理解し、ネットワークづくりができる基礎的能力の育成
5. 性と生殖に関する倫理をふまえ、思春期を中心とした性教育プログラムを開発し、性の健康相談ができる基礎的能力の育成
6. ライフステージ各期の女性のリプロダクティブ・ヘルスの増進を図るために、相談、教育、援助活動ができる基礎的能力の育成
7. 地域母子保健活動を他職種と連携・協働しながら主体的に実践できる基礎的能力、並びに政策化のプロセスを理解できる基礎的能力の育成
8. 国内外の母子保健活動を理解し、国際的な視野をもって発展途上国での助産活動に貢献できる基礎的能力の育成



対象の背景(n=62)

①助産研究科入学前の看護師・助産師経験の有無

職種	人数	平均経験年数
看護師	24人(38.7%)	3.3±2.6年 (0.5~11.5年)
助産師	6人(9.7%)	5.1±3.0年 (2.5~10.0年)



②助産研究科入学前の最終学歴

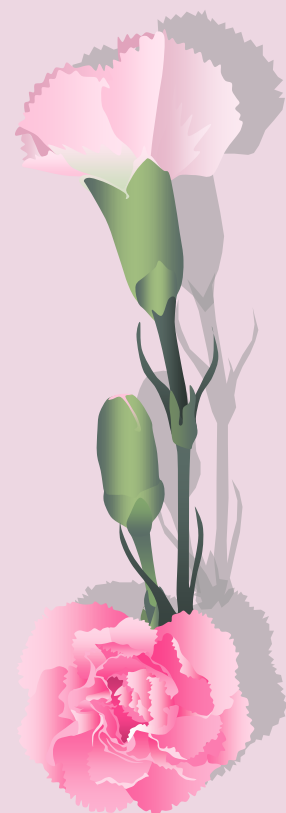
大学 54人(87.1%)

■助産研究科修了後から経過した年数

2.84±1.22年(0.42~4.75年)

■助産師経験年数

3.00±2.33年(0.42~12.5年)

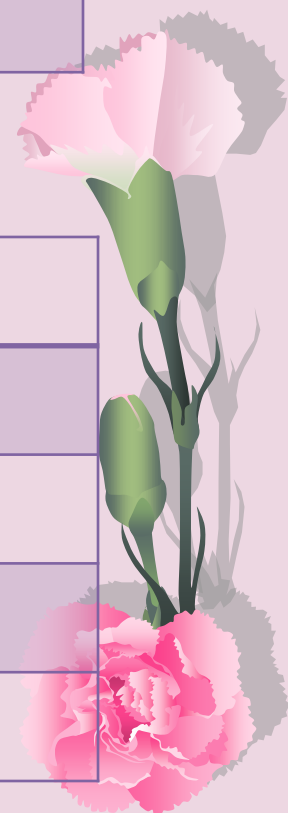


最初の就職先での辞令の職種(n=62)

辞令の職種	人数
助産師	55人(88.7%)
看護師	1人(1.6%)
助産師兼看護師	6人(9.7%)

現在の辞令の職種(n=62)

辞令の職種	人数
助産師	53人(85.5%)
保健師	1人(1.6%)
教員	2人(3.2%)
休職中	6人(9.7%)



施設移動経験者数

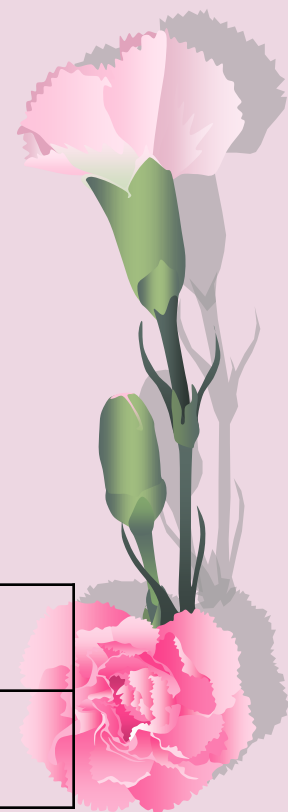
16人 (25.8%)	他施設へ移動 10人	助産師 7人
		教員 2人
		保健師 1人
	休職中 6人	

移動理由(複数回答)

- 結婚 3名
- 体調不良 4名(パワハラによる体調不良2名)
- 勤務条件 3名(給与が安い、休みがない)
- 産科閉鎖 2名(産科縮小・院内助産の中止)

休職期間の有無

あり	13名(21.0%)
休職期間	0.06~1.67年



5段階尺度平均値の比較(2.79~4.50)

平均値の高い項目(>4.0)

Ⅲ-4 助産院実習の役立ち(4.48)

Ⅲ-3 病院実習の役立ち(4.35)

Ⅳ-4 助産師としてやっていく覚悟を持っている(4.31)

Ⅲ-5 出産介助数(最低13例)の役立ち(4.30)

Ⅲ-7 産褥ケース最低10例の役立ち(4.30)

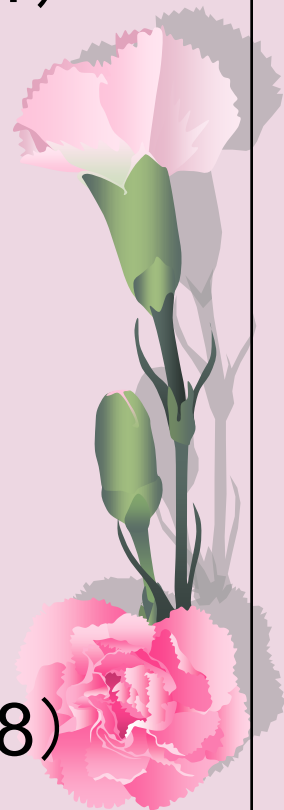
Ⅲ-9 助産研究科の学習の役立ち (4.26)

Ⅳ-3 介助した事例から学びを深めている(4.21)

Ⅳ-5 妊産婦とのcommunication(4.18)

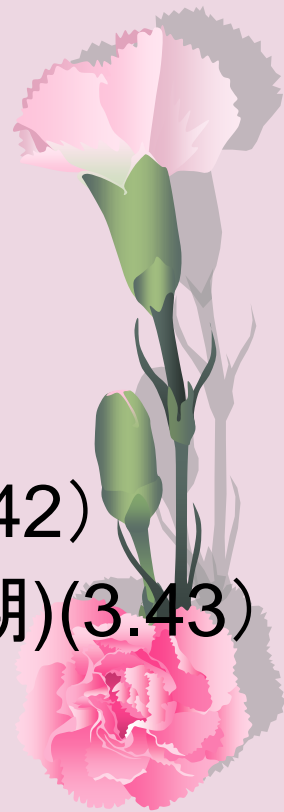
Ⅲ-6 妊婦健診の役立ち(4.08)

Ⅳ-9 出来ない自分を自覚し行動に結び付ける(4.08)



5段階尺度平均値の低い項目(<3.50)

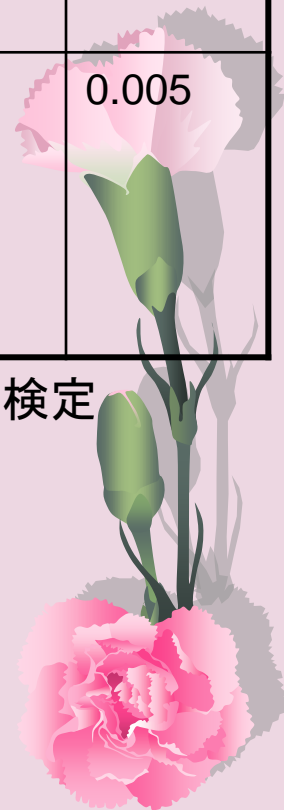
- V-10** 変化エージェントとしての役割を意識している(2.79)
- V17** 母子保健の政策化への関心(2.94)
- V18** 発展途上国での助産活動(3.08)
- V16** 地域母子保健(3.03)
- IV-7** 職場でのカンファレンスへの積極性(3.18)
- V20** 助産師教育(3.26)
- IV-10** 仕事上目立つことを避ける(3.32)
- IV-11** 仕事を頑張りすぎる(3.40)
- V-2** 妊娠期の正常経過の診断とケアができる(3.42)
- V-6** 正常からの逸脱の判断とケアができる(妊娠期)(3.43)



V. 助産実践：正常経過と正常からの逸脱の診断・判断とケア

現在教育を生かしているか否か(>4, <3)	V-1 女性に優しい 自然な出産	V-2 妊娠期 (正常)	V-3 出産期 (正常)	V-4 産褥期 (正常)	V-5 新生児期(正常)	V-6 妊娠期 (逸脱)	V-7 出産期 (逸脱)	V-8 産褥期 (逸脱)
P値	0.029	0.007	0.023	0.000	0.024	NS	NS	0.005

Wilcoxon順位和検定



助産師経験年数との有意な相関

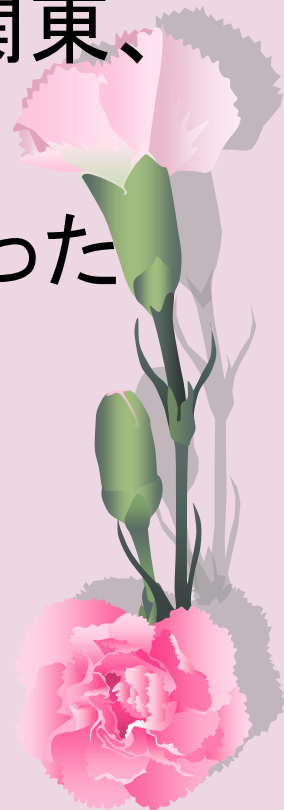
Spearmanの ρ

- Ⅲ-2 現在の自信の程度
- V-3 出産期の正常経過の診断とケアができる
- V-7 正常からの逸脱の判断とケアができる(出産期)
- V-11 エビデンスを用いてケアの質を向上させることを意識して仕事をしている
- V-16 地域母子保健活動を他職種と連携・協働している
- V-19 所属している病棟内において、より質の高いケア提供のために組織や仕組みを改善することを意識して仕事をしている
- V-23 現在の助産実践能力をどのように評価するか



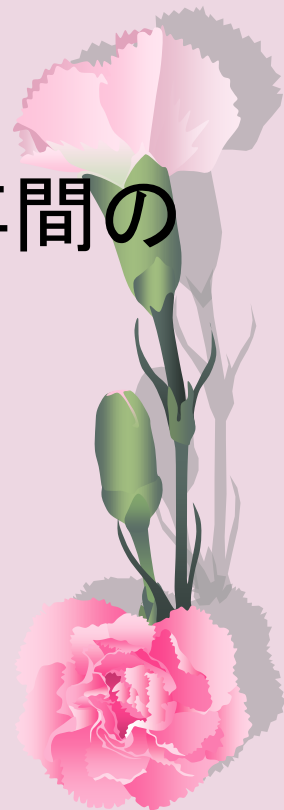
方法 2

- 調査期間 2010年10月～12月
- 半構成的面接調査を、複数の修了生の就職先の上司を対象に実施した
- 面接施設は全国8か所(北海道、東京、関東、関西)であった
- 面接施設の選択基準は以下の通りであった
 1. 上司が一定期間修了生を見ている
 - (2. 早くから修了生が就職している)
 3. 就職した修了生の人数が多い



インタビューの内容

- I. 職場・修了生について
- II. 修了生の助産師としての態度や行動
- III. 人間関係(コミュニケーション)など
- IV. 当大学院の8つの教育目標の達成度
- V. 実践面で、これが専門職大学院での2年間の教育の成果だと感じたこと
- VI. 今後への期待



問
い


1.
正常経過の診断およびケア、正常からの逸脱の判断
断及びケアができるか

答
え

正常経過の診断およびケアはできる

他校の卒業生とは違い、分娩時の落ち着き度が違う
「実習で分娩を14、15例やったと言えるし、その経験
は大きい」

学生の時の実習を十分に発揮できない環境にある
「病院の特色として、正常産より異常産が多いので力を
発揮する場がない」



問
い

2.

科学的な根拠の明らかにされている手段を、ケアの質の向上に応用する力があるか

答
え

科学的根拠を明らかにする姿勢、ケアの質の向上を目指す態度がある

「臨床的には科学的根拠に乗っ取ってやろうと思っているので、これはどうでもいい、これはちょっとこだわろうという所に、するっと入ってきている」

研修会に出たり、先輩に聞いたりという学ぶ姿勢はある

個人差がある



問
い

3.

助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、助産チーム及び他職種との連携・調整能力があるか

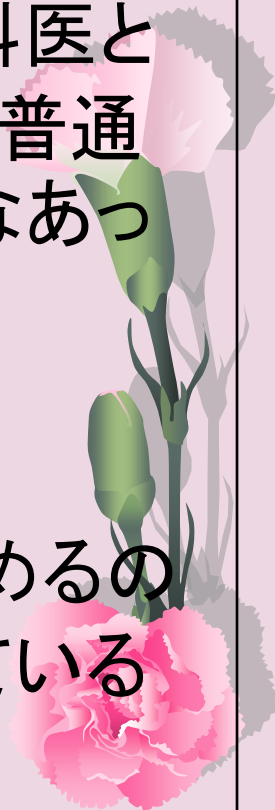
答
え

他職種との連携・調整能力がある

「NICUへ異動になったばかりだが、新生児科医と分娩室での経験の事をつなげてくれている。普通の2年目の助産師では出来ない事だったかなあつていう感じ」

今は教えてもらいながら周りを見ている段階

「3年目の二人はこれからリーダー業務を始めるので、力は発揮できると思うが、今は周りがしているのを見ている段階」



問
い

4.

子育て支援について関心をもち、子育てに関わる他領域の専門家の役割を理解し、ネットワークづくりに関心をもっているか

答
え

子育て支援活動に参加している

子育て支援活動に関心がある

「産後クラスとか育児クラスを作りたい、という話をしている」

子育て支援に関心はあるかもしれないが、実際はわからない

「関心はあるかもしれないが表出されることはない」



問
い

5.

性教育や家族計画指導など性の健康相談の実施に関心をもっているか

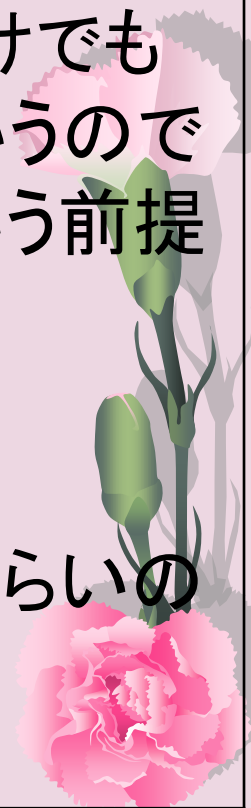
答
え

不妊治療に関して自然に入っていける

「妊娠のバックグラウンドに不妊がある人だけでも相当多い。しかし、不妊を全く知りませんというのではなく、ああそういう事があるんだよねっていう前提ですぐ話に入れる」

関心があるか知る機会がない

「家族計画指導実施の機会はあるが、どのくらいの関心を持っているか訊いたことがない」



問
い

6.

ライフステージ各期の女性の健康増進を図るために、相談、教育、援助活動に関心をもっているか

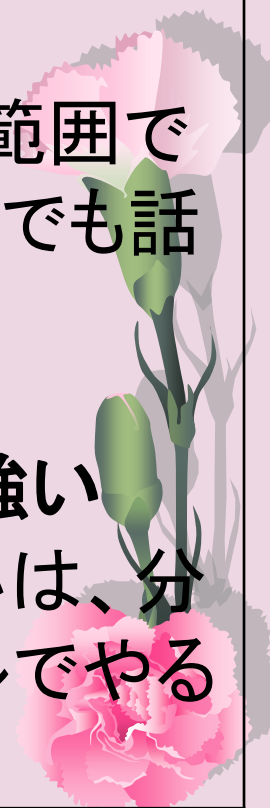
答
え

更年期のケアを助産師の役割として受け止めることができる

「更年期外来の教室の話が来た時、自分の範囲ではないですみたいな感じではなかった。新卒でも話に入ってこれる」

関心はあるが、それよりも分娩への関心が強い

「関心はもてるが、常にではないと思う。関心は、分娩の技術、傷を作らないとか、フリースタイルでやるとかに集中する」



問
い

7.

地域母子保健活動を他職種と連携・協働し主体的に実践し、政策化のプロセスに関心をもっているか

答
え

地域母子保健活動への関心はある

「主体的にというのはまだ難しいと思うが、NICUの環境は連携・協働の機会が多いので、意識はある」

実践的能力はみられない

「地域母子保健活動を主体的に実践するのは、かなり力を持っていないとできない。相手との交渉もあるし、本当に協働したい場合には調整能力というのは必要だと思う」



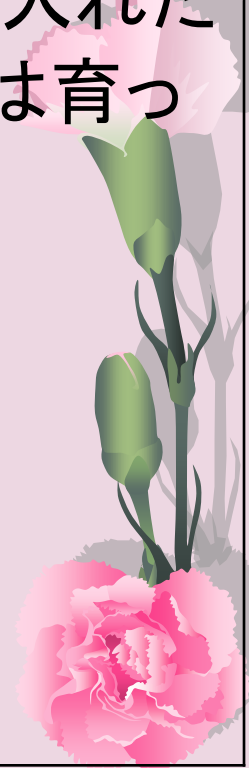
問
い

8.

国際的な視野をもって発展途上国での助産活動に貢献することに関心をもつ

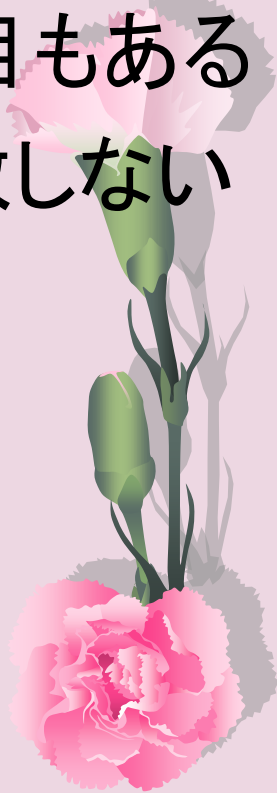
答
え

JICAの活動に関心をもち、受け入れている
「JICAの関係でアフリカからの研修生を受け入れた時、当たり前前に受け止めていたと思う。関心は育っていると思う」



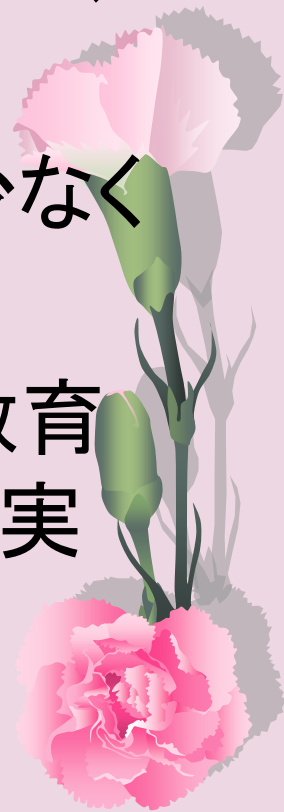
考察

1. 離職率が低く、助産師のIdentityが育っている
2. 修了生の受けた教育への評価は高い
3. しかし、教育目標の到達度は、評価するには、
就業年数が浅いために、評価できない項目もある
4. 他大学院修了生の特徴とは必ずしも一致しない



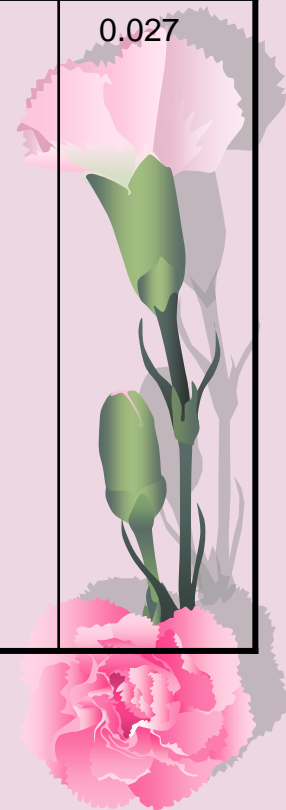
本研究の限界と今後の課題

1. 回答した修了生は、受けた教育に対する評価が相対的に高い可能性がある
2. 修了後の就業年数が浅いため、評価しにくい項目がある
3. 他大学院の修了生は数と就業年数が少なく比較がしにくい
4. 今後も継続して、他大学院、他の助産教育課程との比較を視野にいれ、教育評価を実施する必要がある



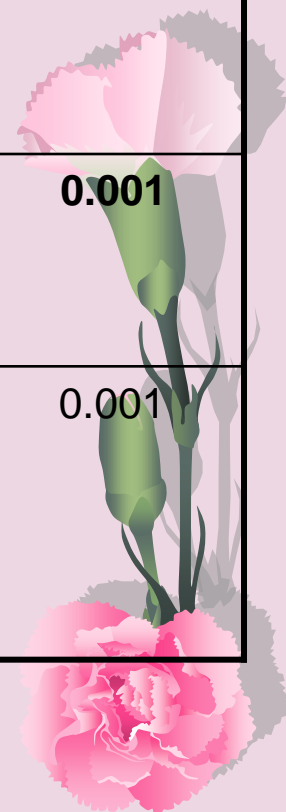
IV. 助産師としての行動について

	IV-1 わからない時 勉強する	IV-3 介 助した事 例から学 びを深め ている	IV-4 助産 師としての 覚悟	IV-6 上司、 先輩と のコミュ ニケー ション	IV-8 分娩第 I期から産婦 に寄り添って いる	IV-9 できな い自分を自 覚し、行動に 結びつける	IV-10 仕 事上目立つ ことを避け る	IV-11 頑 張りすぎる	IV-12 自 らヘルプを 求めて行動 する
現在教育を生かしているか否か (>4、3>)	0.003	0.002	NS	0.006	NS	0.000	NS	NS	0.027



V. 助産実践

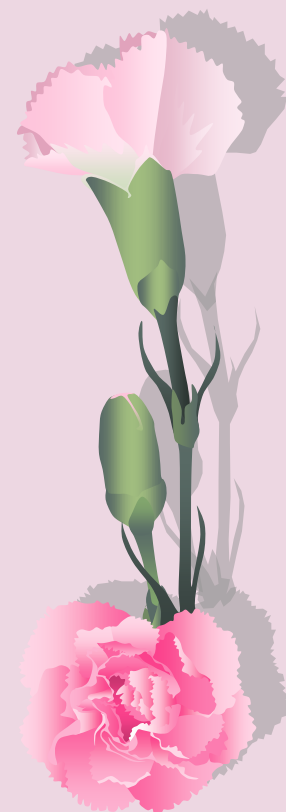
	V-10 変化エージェントとしての役割	V-11 エビデンスを用いたケア向上	V-12 子育て支援への関心	V-19 よりよいケア提供の意識	V-22 就職当時の助産能力	V-23 現在の助産能力
助産師免許有資格者	0.031	0.034	0.028			
看護師免許有資格者	0.081	0.446	0.219	0.042	0.001	0.001
現在教育を生かしているか否か	0.017	0.001	NS	0.025		0.001



Ⅱ-1. (5)

配属先で、助産研究科で受けた教育を生かしているか

	Ⅱ-1. (5) 配属先で、助産研究科で受けた教育を生かしているか
現在教育を生かしているか否か(4<、<3)	0.000
最初の配属場所	0.546
現在の配属場所	0.058

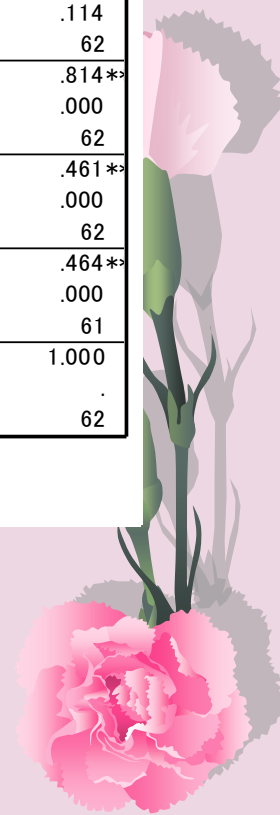


相関係数

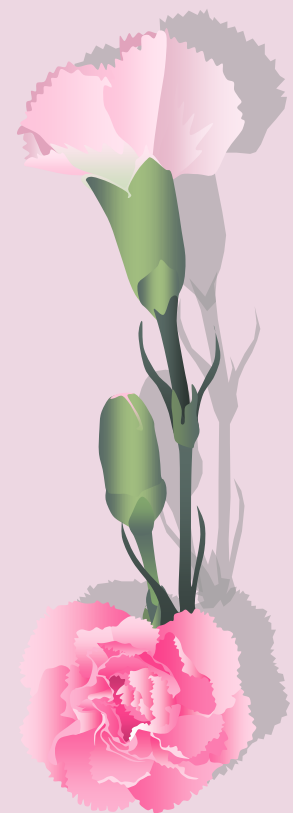
		1.5)教育を生か せましたか	Ⅲ.1.終了後、 就職するにあ たっての自信	Ⅲ.2.現在 の自信	Ⅲ.14.助産 研究科の 教育を生か せているか	V.22.就職当時 の助産能力	V..23.現在 の助産能力	
Spearmanのρ-	1.5)教育を生か せましたか	相関係数 有意確率(両側) N	1.000 .121 60	.203 .076 60	.231 .001 60	.416** .001 60	.417** .001 59	.355** .005 60
	Ⅲ.1.終了後、就 職するにあ たっての自信	相関係数 有意確率(両側) N	.203 .121 60	1.000 .038 62	.264* .038 62	.137 .288 62	.721** .000 61	.203 .114 62
	Ⅲ.2.現在の自信	相関係数 有意確率(両側) N	.231 .076 60	.264* .038 62	1.000 .001 62	.414** .001 62	.269* .036 61	.814** .000 62
	Ⅲ.14.助産研究 科の教育を 生かしている か	相関係数 有意確率(両側) N	.416** .001 60	.137 .288 62	.414** .001 62	1.000 .001 62	.197 .128 61	.461** .000 62
	V.22.就職当時 の助産能力	相関係数 有意確率(両側) N	.417** .001 59	.721** .000 61	.269* .036 61	.197 .128 61	1.000 .001 61	.464** .000 61
	V..23.現在の助 産能力	相関係数 有意確率(両側) N	.355** .005 60	.203 .114 62	.814** .000 62	.461** .000 62	.464** .000 61	1.000 .001 62

** 相関は、1%水準で有意となります(両側)。

* 相関は、5%水準で有意となります(両側)。

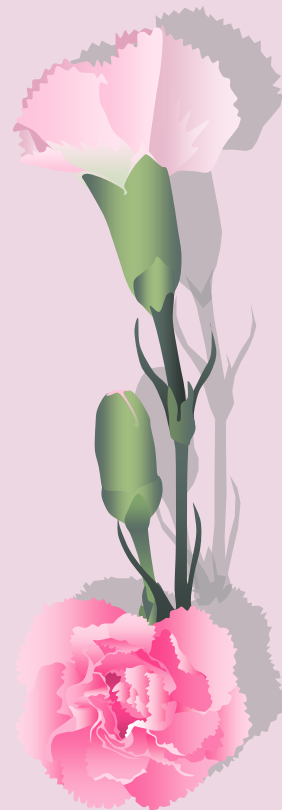


	平均値	標準偏差
Ⅲ.1 修了後、就職するにあたっての自信	3.71	2.31
Ⅲ.2 現在の自信	5.02	2.06
Ⅲ.3 病院実習の役立ち	4.35	0.85
Ⅲ.4 助産院実習の役立ち	4.48	0.86
Ⅲ.5 出産介助数(最低13例)の役立ち	4.30	0.97
Ⅲ.6 妊婦健診の役立ち	4.08	1.01
Ⅲ.7 産褥ケースの役立ち	4.30	0.84
Ⅲ.9 学習の役立ち	4.26	0.85
Ⅲ.13 他の教育コースとの違い	3.89	1.07
Ⅲ.14 助産研究科の教育を生かして	3.77	0.90



	平均値	標準偏差
IV.1 わからない時、勉強する	4.06	0.79
IV.2 勉強会、研修会への参加	3.76	0.82
IV.3 介助した事例から学びを深めている	4.21	0.74
IV.4 助産師としての覚悟	4.31	0.97
IV.5 妊産婦とのコミュニケーション	4.18	0.73
IV.6 上司、先輩とのコミュニケーション	3.95	0.83
IV.7 職場でのカンファレンスの積極性	3.18	1.11
IV.8 分娩第1期から産婦に寄り添っている	3.84	1.20
IV.9 できない自分を自覚し、行動に結びつける	4.08	0.80
IV.10	3.32	1.07

	平均値	標準偏差
IV.11 頑張りすぎる	3.40	0.98
IV.12 自らヘルプを求めて行動する	3.95	0.97

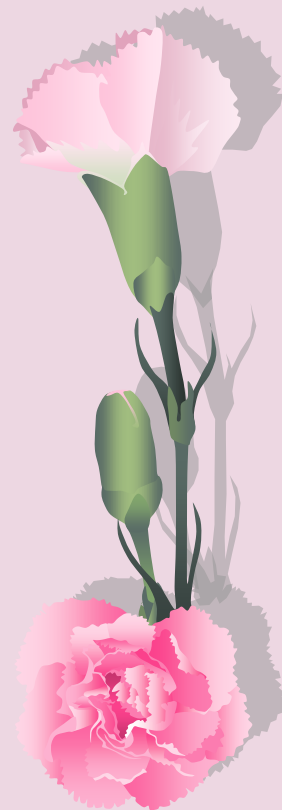


	平均 値	標準偏 差
V.1 女性に優しい自然出産のための ケア	3.85	1.01
V.2 妊娠期の正常経過の診断とケ ア	3.86	0.78
V.3 出産期の正常経過の診断とケ ア	4.03	0.80
V.4 産褥期の正常経過の診断とケ ア	4.31	0.97
V.5 新生児の正常経過の診断とケ ア	3.77	0.91
V.6 正常からの逸脱の判断とケア (妊娠期)	3.43	1.00
V.7 正常からの逸脱の判断とケア (出産期)	3.59	0.92
V.8 正常からの逸脱の判断とケア (産褥期)	3.92	0.81

	平均 値	標準偏差
V.9 正常からの逸脱の判断とケア (新生児期)	3.58	0.98
V.10 変化エージェントとしての役割	2.79	1.16
V.11 エビデンスを用いたケア向上	3.65	0.89
V.12 子育て支援への関心	3.90	0.99
V.13 ネットワークづくりへの関心	3.53	1.16
V.14 性への健康相談への関心	3.87	1.18
V.15 ライフステージ各期の女性へ の健康増進への関心	3.65	1.15
V.16 地域母子保健活動	3.03	1.15
V.17 母子保健の政策化への関心	2.94	1.20
V.18 発展途上国での助産活動へ の関心	3.08	1.37



	平均 値	標準偏 差
V.19 よりよいケア提供の意識	3.47	1.13
V.20 助産師教育	3.26	0.93
V.21 他職種との調整・連携	3.57	0.83
V.22 就職当時の助産能力	2.80	1.99
V.23 現在の助産能力	3.77	0.91



就職するにあたっての自信	3.71	} 有意差
現在の自信の程度	5.02	

就職した時の実践能力	2.80	} 有意差
現在の実践能力	4.73	

看護師経験者は就職時の自信は有意に高いが、現在の自信は高いながらも有意差はない。

助産実践能力についても同様である。

